NO.2
2013年1月1日
発行所＊NPO法人いぶりたすけ愛
〒059－0233
北海道登別市桜木町2－20－10
TEL0143－88－3003
発行者　星川光子

GLnet　会報

「お年寄りが幸せに暮らせる社会を作る活動 」＆グループリビング運営協議会

謹賀新年

暮らしをつくる楽しみ

慶應義塾大学総合政策学部　教授
グループリビング運営協議会
顧問　大江守之

ここ 2 年ほど、グループリビングとは「生活支援サービスを地域から共同購入する高齢者の小規模集住形式」であると考えるようになった。グループリビングに出会って 10 年以上になるが、やっと自分なりの捉え方ができたように思う。10 人の高齢者が何をいくらでどこからどのように共同購入するかをゼロから話しあうことは現実的には困難であり、それを NPO が手助けすることでグループリビングでの生活は成り立っているが、基本は当事者である居住者がどのような暮らしをつくりたいのかを話し合うことにある。パッケージ化された暮らしのシステムを購入するのではなく、みずから暮らしをつくる楽しみと自由が（時には苦労も）含まれる居住スタイルであり、変化することを躊躇する必要はない。協議会はお互いの経験や希望を伝えあい、この楽しみを大きくする場であってほしい。

グループリビングをつくる

福島福祉会　常務理事
グループリビング運営協議会理事
清野恭子

高齢者生き活きグループリビング「モーニング」は、平成二十一年四月にオープンいたしました。

私共法人では、平成十五年四月に福島県高齢者対策モデル事業として開所した、グループリビング「モルゲン」が始まりでした。財団法人ＪＫＡ助成事業として二つ目のグループリビングが誕生したのです。当法人は、平成元年に福島の飯坂町に視覚障害者（盲）の施設を開所し、現在は在宅サービスへと地域福祉事業を展開しております。当地飯坂温泉での「湯ったりデイサービス事業」等、地域の資源を利用し活性化を図り元気な高齢者の生きがいや閉じこもり予防に、地域との“共生”を使命に貢献しております。

東日本大震災では、避難を余儀なくされた被災者の方も、ご縁があって入居されております。「ここで暮らせて良かった。」と安心していただけるように、これからも全国のＧＬの会員の方々や入居者の人たちとの交流深めて、全国の皆さまと心をつなげていけたら幸せです

活動レポート１

北海道に「自立と共生の暮らし」を広げる活動　研修会ＩＮ釧路

本音で話し、知恵を出し合った研修会

ＮＰＯ法人いぶりたすけ愛
理事長　星川光子

今年度、グループリビング運営協議会が発足し、全国に向けてグループリビングの普及啓発活動、調査研究を通し、豊かな高齢社会の推進を目指して活動が始まりました。全国の活動と共に、北海道内の連携を強めていくために、北海道新聞社福祉振興基金の助成により、研修会ＩＮ釧路を開催することができました。グループリビング運営協議会と「ほがら館」のご協力を得て、有意義な研修となりました。「自立と共生」の暮らしが広がり、「ほがら館」が満室になるよう、本音で話し合い、知恵を出し合いました。

北海道に「自立と共生の暮らし」を広げる事業　研修会ＩＮ釧路の目的

- 北海道内にあるグループリビングの情報交換を通し、互いの連携を図る。
- 釧路の「ほがら館」の生活を見学、体験し相互の違いを知り、生活の向上を図る。
- 生活者の主体性を高め、自ら生活を作り上げていく気力を高める。
- グループリビングの周知の方法を探る。
- 「ほがら館」の生活を通して、グループリビングの暮らしやすさを確認する。

---

1 日目（10 月 14 日）

参加者が「ほがら館」にそれぞれ到着し、参加者、生活者、運営者がそろって夕食をいただきました。

2 日目（10 月 15 日）

午前中は「ほがら館」の生活者を囲んでのお茶会で自己紹介を行った後、「老いても安心して暮らせる地域づくり」を目指す同法人が運営する地域サロン「たまり場」を見学しました。築 50 年の木造住宅で、グループリビングの生活者の男性がスタッフとして働いています。続いて「グループホームさんぽみち」を見学後、「地域食堂」で昼食をとりました。定食はさんまご飯、すいとん、切り干し大根、胡麻プリンで 300 円という驚きの値段でした。「地域食堂」は毎週月曜日の昼に開かれています。「ほがら館」の生活者は毎週地域食堂に通い昼食をとっています。

居場所

グループホームさんぽみち

地域食堂

地域食堂の定食

昼食後は「ほがら館」に戻り、研修会が始まりました。まず慶應義塾大学教授の大江守之氏が「グループリビングのタイプ～ＧＬの色々な形～」を講演、次にＮＰＯ法人わたぼうしの家会長の佐々木幸子氏が「ほがら館の生活」、続いて社会福祉法人福島福祉会の清野恭子氏が「グループリビングの取り組み」について、講演しました。その後慶應義塾大学の土井原奈津江氏が「グループリビング運営協議会の活動報告」を行いました。

大江守之氏

佐々木幸子氏

清野恭子氏

会場の様子

3 日目（10 月 16 日）

午前中は「ほがら館を満室にする作戦会議」をテーマにワークショップを開きました。まず「ほがら館」で生活体験をした参加者の発表からはじまりました。ＣＯＣＯ湘南台居住者の高坂嘉代子氏、オザワプランニングの小澤典仁氏、小樽市高齢者懇談会の若宮カナ子氏、「じゅげむ館きたみ」の中村雅充氏、サービス付き高齢者向け住宅の運営者の白崎邦彦氏が発表し、その後グループワークでほがら館のキャッチフレーズを作り発表しました。大江守之氏が研修のまとめを行い、最後に次回の研修会ＩＮ札幌の案内が白崎邦彦氏からありました。

高坂嘉代子氏

小澤典仁氏

若宮カナ子氏

中村雅充氏

白崎邦彦氏

キャッチフレーズの発表

キャッチフレーズの発表

会場の様子

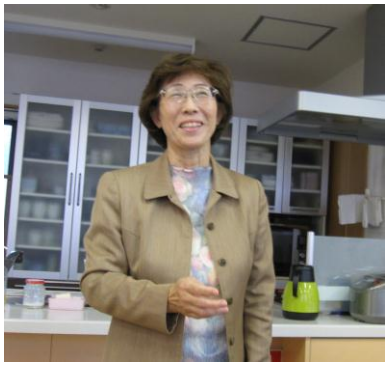
研修会まとめ

慶應義塾大学総合政策学部教授　大江守之

社会学者の宮台真司は、承認・尊厳・自由は相互に関係をもって存在すると述べています。他者が認めてくれる「承認」があるから、失敗しても大丈夫という「尊厳」を持つことができ、自分の考えに基づいて「自由」に試行錯誤できるというのです。高齢者グループリビングがめざす「自立と共生」の理念は、言い換えると、そこで暮らす人々の日常生活の中に承認・尊厳・自由ができるだけ多くあるように、居住者も支援者も行動しようということではないでしょうか。問題が起きないようにルールで縛っていくのではなく、問題は気づきを与えてくれる良いきっかけと捉えて、話し合っていくことが大切です。今日の場はその一つであったと思います。

研修会を終えて

ＮＰＯ法人わたぼうしの家
会長　佐々木幸子



10 月 14 日からのほがら館での「研修会 IN 釧路」での開催ありがとうございました。星川さんから《ほがら館を満室になるように》とのテーマーをお聞きし驚きましたが参加者が本音で話し、知恵を出していただきました。研修会後、今まで気がつかなかった事、気がついていたがそれほど満室になる要素と考えていなかったこと等々、早速できる所から始めました。しかし、それ以前にほがら館を開設し既に５年経過しているにも拘らず私自身が『自立と共生』の捉え方を理解していなかったことに気づかされました。参加下さった皆様、また釧路に来てください。

＊研修会の講演内容等については、年度内にホームページＧＬnet に掲載の予定です。

アンケート結果

１　研修会ＩＮ釧路は役に立ちましたか？

- 同じ課題に関心のある人達と知り合えて良かった。
- 大きい事業、小さい事業は別として、地域事情に対応している姿勢は、すばらしいと感動しました。
- 入居者と生活を共にする事で見えてくることがありました。
- 他の事業所の方々と様々な視点を持つことができました。（地域の参加者も含めて）
- グループリビングのねらい、目的、コンセプトが明確になっていないと経営そのものが不安になるらしい。しっかりいろいろなケースを想定した中でくらしを考えて行くことが大切だと思いました。
- 仲間が集まって刺激し合うことは「自立と共生の暮らし」を確立していくために必要なことと感じました。
- ＧＬに関して意見交換の機会に恵まれず、立場の違いによる見解の相違を認識出来たことが新鮮な体験でした。
- 同じグループリビングでもそれぞれに違いがあり、悩みもかかえている事を改めて感じ、今回のような研修会は大変有意義であり、今後も開催される事を願います。

２　「ほがら館」に感謝をこめて一言

- 入居者が増え、経営が安定し、入居者が安心して暮らせるように早くなるといいですね。
- 地域の人達にやさしい事業をされている様子はこれからの超高齢化社会にかかせないものですので、ガンバッテ拡げていって頂きたいと思います。
- ようこさんの手料理の優しい味には、感動です。
- 体験させていただいたというのは、何より“百聞は一見にしかず”ですね。ほがら館で感じたいろいろなことは、私が今行っているＮＰＯの障害者支援にも通じると感じました。
- ほがら館が満室になって、ほがらかな場所になることを願っています。釧路の街、ほがら館、人、みんな素敵でした。
- 色々な面で大変とは思います。でも日々の努力・工夫は、きっと花咲く時がやってくると信じて！　私たち「じゅげむ館きたみ」も頑張ります。　共に頑張りましょう。
- ほがら館のスタッフの方々の熱心さが伝わり、これからの前進を信じて助け合って行けたらと思います。

活動レポート２

じゅげむ館きたみ

外観

セミナー

紙飛行機

折り紙

かるた

「じゅげむ館きたみ」は北海道北見市にあります。『いつまでも元気に、自分らしく生涯自立、助け愛のくらしを初めてみませんか』をキャッチフレーズに、グループリビングを運営されています。運営はＮＰＯじゅげむ館きたみ、代表は地元で建設業を営んでいらっしゃる中村雅充氏です。

「じゅげむ館きたみ」の建物は北海道学園大学北見校の学生を対象としたアパートとして作られましたが北見校が閉鎖した後に最初の事業者がオーナーに声をかけ、『平成 21 年度高齢者居住安定化モデル事業』で補助を受け、改修工事をし開設しました。（財）高齢者住宅財団の事業評価では「グループリビングのスキームを高専賃に導入する試みを、体系的に行うことを評価した。高齢者一人での老後をグループリビングにより、より生き活きしたものにしようとする提案であり、高齢者を社会活動へとつなぐ仕組み等に、先導性がみられる。」という高評価を受けられています。（http://www.mlit.go.jp/common/000052388.pdf）開設時入居者が期待通りには入らず、最初の事業者は運営をギブアップし、平成 22 年 11 月に中村氏が引き継つぎました。現在は 24 室のうち約半分の入居があります。いただいた資料のなかに『じゅげむ館きたみ住み人民の心得』がありました。そこにはグループリビングで共同生活する上でたいへん重要なことが書かれています。このような心がけを運営者、生活者、支援者がみんなで共有すれば、共同生活は楽しく、気ままな生活ができるのではと思いました。グループリビング運営者のいくつかは地域の中でグループリビングの知名度がないため、入居率を上げることに苦労されています。いい運営をされているのに 10 年でやっと満室になるところも少なくありません。しかし一旦満室になると今度は入居待ちがでるほどになっているところもあります。あきらめないで理念を貫いていただきたいと思います。

『じゅげむ館きたみ』

じゅげむ館は『自立と共生』を目指すグループリビングの新しい住まいです。
じゅげむ館の住み人は、お互いに支え合い、励まし合って、いつも笑顔で仲良くくらしましょう。
また、共用空間は広く地域社会にも開放し、地域の人たちとも仲良く交流していきましょう。
じゅげむ館の住み人は、次の五つのことを据えて行動するよう心がけていきましょう。

じゅげむ館きたみ『住み人の心得』

◎ できる人がやりましょう。身体的にできない人は無理はさけましょう。
◎ できない人に強要はやめましょう。
◎ できる人の邪魔をしないようにしましょう。
◎ どんなに努力をしても、他人を全て理解することはできません。だから、他人のことを、先ず認め合うように努力しましょう。
◎ 見栄を張らず、背伸びをせず、無理をしないで、家族として気楽に住み続けましょう。

お知らせ

NPO 法人いぶりたすけ愛主催『北海道に「自立と共生の暮らし」を広げる活動』（グループリビング運営協議会が協賛）の「高齢者が生き活き暮らす北海道」をテーマに 12 月 22 日（土）に竣工したばかりのサービス付き高齢者向け住宅「アルスタウン」で行いました。宅老所の先駆け「タウン白楊」の見学会も午前中に開催しました。次回の会報で特集したいと思います。

NEWS

10 月 14 日～16 日

釧路のほがら館で『北海道に「自立と共生の暮らし」を広げる活動』で研修会ＩＮ釧路を開催しました。

12 月 22 日

札幌のアルスタウンで『北海道に「自立と共生の暮らし」を広げる活動』で「高齢者が生き活き暮らす北海道」をテーマに研修会を開催しました。

速報　横浜ワークショップ参加者募集！

2013 年 2 月 23 日（土）、24 日（日）にワークショップを行います。テーマは「地域に開くグループリビングーその役割と意義―」です。1 日目の見学会は先駆的なコミュニティカフェで知られるふらっとステーション・ドリーム、市民力で作ったグループリビングＣＯＣＯ湘南台、夜は中華街で交流パーティーを開きます。2 日目は神奈川横浜市の神奈川県民ホール大会議室で開催いたします。対象はグループリビングの運営者、生活者、スタッフ、生活支援事業者、興味を持つ人、作りたい人、行政の方々、研究者などです。定員になり次第、締め切りとさせていただきます。お早めにお申し込みをお願いいたします。

ホームページ GLnet のお知らせ

ホームページ GLnet は JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を作る活動」で運営しています。先駆的なグループリビングの活動や研究成果を掲載しています。http://glnet.sfc.keio.ac.jp/

グループリビング運営協議会　会員募集中

■グループリビング運営協議会　連絡先　土井原奈津江　NPO 法人 COCO 湘南内
TEL　0466 - 46 - 4976　・　FAX　0466 - 42 - 5767　（1PM～5PM・平日）
会員の皆様、ぜひ関係者の方をお誘いください。

編集後記

グループリビングの理念である『自立と共生』の自立を介護保険で言われている身体的な自立と受け止めている方が少なくないことに気づきました。生活者の心身の機能低下があっても、その状態にあうような暮らしを作りながら、自由に気ままに暮らすことを運営者と生活者が一緒に目指していくことがグループリビングだと考えています。運営者は生活者の声に耳を傾け、自分のこととして受け止め、柔軟な体制をとることが大切なのではないでしょうか。（な）

編集委員　星川光子　土井原奈津江　星野友里